



ТАКИКАВА ахлах сургууль

2023年1月16日
第1号

滝川高等学校 メルゲド総合学校 交流報告

МЭРГЭД лаборатори сургууль

滝川高校は、令和4年の6月、モンゴル国アルバイヘル市のメルゲド総合学校と交流提携を結びました。

今後、生徒間の交流や、授業内での協働、交換留学などの事業を計画していくことが約束され、令和4年の12月には、両校の校長先生やメルゲド総合学校の日本語の先生を交えたオンライン会議を実施しました。



アルバイヘル

「モンゴルのへそ」と呼ばれ、国土の中央に位置するウブルハンガイ県の県庁所在地で、人口は22000人程です。県内には、モンゴル帝国の首都として知られるカラコルムもあり、経済や交通の要所となっています。また、市内には美術館や劇場の他、モンゴル科学技術大学アルバイヘル校も所在しており、中央モンゴルの中核都市です。



県庁の外観

市内の公園

標高1800メートルの高地にあるため気候は穏やかで、夏でも最高気温は20℃ほどです。春と秋には雪が降りますが、冬は滝川よりも寒く、マイナス20度を下回る日が続く日はほとんど降りません。

メルゲド総合学校

1年から12年生まで、約1000名の生徒が学ぶ大きな学校です。日本の教育制度にあてはめると、「小中高一貫校」となります。

3年で必修、4年生から12年生までは選択で日本語の授業が開講されており、約300名の生徒が日本語を学んでいます。コロナ以前には、日本人の青年海外協力隊員が在籍していましたが、現在はモンゴル出身の先生が1人で全ての日本語の授業を担当しています。

提携までの経緯

滝川市は、モンゴル国ウブルハンガイ県と交流があり、滝川市と滝川国際交流協会によるLGOTP（自治体職員交流事業）やJICA草の根技術支援事業等による技術支援を実施してきました。このような結びつきから、滝川市は友好交流宣言に調印し、昨年は引退した消防車（下の写真）が譲渡され、「TAKIKAWA」の文字が入ったまま現地で活躍しています。今年の春には、使わなくなったランドセルを贈る事業が実施されました。

このように自治体同士の結びつきも強く、学校間での交流も以前から話題にあがっていました。

一方、滝川高校では、新型コロナウイルスの流行によって海外研修を中止して以来、授業での交流や共同での課題研究などを含む、訪問だけに終わらない国際関係の締結を模索してきました。

本校のSSH研究課題は、「協働・協創カリキュラム」開発です。提携相手校だけでなく、滝川市やウブルハンガイ県との協働・協創カリキュラムを作りたいと考えました。そこで、滝川市国際交流協会の協力を得て、メルゲド総合学校に提携を打診したところ快諾を頂き、提携事業を開始する運びとなりました。

